

# 富岡製糸場と深谷人

「第2回」

## 『養蚕手引抄』を手伝う

尾高惇忠 その①

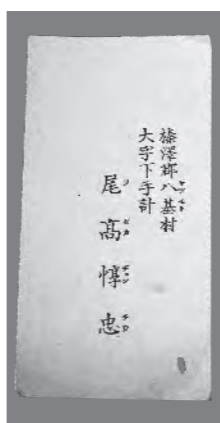
尾高惇忠は、天保元年（一八三〇）七月、下手村（現在の深谷市下手村）に生まれました。幼名は新五郎、号が藍香、通称は惇忠で、父勝五郎、母やへの長男です。十五歳になると家業に従事するようになり、当時の尾高家は、米穀・塩・油などの日用品と藍玉の加工販売を主としたことから、尾高家の屋号は『油屋』といわれており、ほかに農業も営んでいました。

この頃、伯父の渋沢宗助が『養蚕手引抄』を手掛け惇忠も手伝うなどして、以来養蚕に注目します。これは後の秋蚕の有利性を提唱して農民の指導に当たる基礎づくりとなりました。渋沢宗助の『養蚕手引抄』は、安政二年（一八五五）に一〇〇部木版印刷で発行されます。宗助は惇忠・渋沢栄一の伯父にあたります。

嘉永年間（一八四八〜五三）

には台村（現在の久喜市）出身の遊歴学者菊池菊城に儒学を学びます。剣は十歳にして大川平兵衛に神道無念流を学びました。特に水戸学に傾倒して攘夷論を奉じ、家業の傍ら、弘化四年（一八四七）から慶応四年（一八六八）ごろまで尾高塾を開き、陽明学の知行合一を学則として掲げ、近郷の子弟を教育します。いとこの渋沢栄一もここで学んでいます。郷士の偉人を輩出した背景に中瀬河岸の存在があります。中瀬付近は良質の栗石の産地で、この栗石輸送を契機として中瀬河岸が発達したといわれています。江戸時代中期以降、利根川中流最大の河岸として発展し、幕末には荷船輸送だけでなく江戸向けの早船が就航します。故に中瀬は時代の変動に敏感で、政治・経済・文化の変動を素早く感じ取り、それに対応した生き方を続けてきたのです。

文久三年（一八六三）渋沢栄一や渋沢喜作らと高崎城乗っ取り、横浜異人館焼き打ちを計画しましたが、天下の情勢に通じた弟長七郎の意見を入れ計画を断念します。明治元年（一八六八）渋沢喜作らと共に義勇隊を創設します。後に脱退し、喜作らと振武軍を結成、飯能で官軍と戦い敗走しましたが、末弟の平九郎（渋沢栄一の養子）は黒山で自刃しました。（文・荻野勝正）



「尾高惇忠の読みについて」  
埼玉人物事典など多くの資料が、尾高惇忠となつていますが、他人が諱（本名）で呼ぶことを避ける習慣があり、代わりに諱を音読みする場合があります。二宮尊徳（たかのり）を（そんとく）と呼ぶ例がそうです。右の名刺のように本人も「ぢゅんちゆう」と呼ばれることを好んでいた様子でもあり、ここでは「ぢゅんちゆう」と音読み表記とします。

### 尾高惇忠 初代所長の意気高く

尾高惇忠は埼玉県深谷市出身で富岡製糸場建設の総指揮をとった。操業開始後は初代所長として活躍した。工女募集の際には長女勇を第一号の工女として入場させた。また秋蚕普及の功労者である。

明治34年（1901）70歳で没。

（『富岡製糸場「絵手紙かるた』』NPO法人富岡製糸場を愛する会 より）



※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢については、当時の通例に従い数え年の表記とします。（ただし、『絵手紙かるた』は満年齢です）

# 市長の深い話

深谷市長 小島 進



## 深谷の魅力発信

深谷といえば『ぶっかちゃん』。そういつても過言ではないほど、今では欠かせない存在です。ゆるキャラグランプリで平成23年に全国第6位、おとしが第5位、そして昨年が第4位と、一歩ずつではありますが、着実に順位を上げており、深谷のPRに多大な貢献をしています。

先日、深谷市出身や深谷市にゆかりのあるかたを『深谷市親善大使』に委嘱しました。ドールコーヒー名誉会長の高羽博道さん、映画作家の大林宣彦さん、ノーベル化学賞受賞者の下村脩さん、ソチパラリンピック出場者の阿部敏弘

さんと村岡桃佳さん、ロンドンパラリンピック出場者の高桑早生さん、お笑い芸人の「ル」松本さん、落語家の古今亭志ん丸さんと三遊亭楽京さんの9名のかたが深谷市親善大使を引き受けてくださいました。親善大使の皆さんからは、「深谷の魅力をどんどんPRしていきます。」「この言葉をいただきます。」

皆さんご存知のとおり、深谷はネギをはじめとした多くの農畜産物が全国有数の生産量を誇っています。また、近代日本経済の父、渋沢栄一翁や武蔵武士の鑑とされたわれた畠山重忠公の出身地でもあります。地理的には東京へ通勤可能な位置にありながら、豊かな自然に恵まれているなど、多くの魅力を有しています。

このような深谷の魅力をより多くのかたに知ってもらおうと、これまでさまざまな仕掛けを施してきました。今回の親善大使も、そんな仕掛けの一つです。これから新たな仕掛けを施しつつ、ぶっかちゃんや親善大使の皆さんにも活躍していただきながら、深谷の魅力を発信し、深谷を大いにPRしていきたいと思っています。

## ありがとうの手紙



最優秀賞  
小学校高学年の部  
食べ物へ

深谷小学校5年（現6年） 織田舜平 さん

豚さん、鳥さん、牛さん、ぼくの血や肉、いのちになってくれてありがとう。野菜さん、ぼくの体を健康にしてくれてありがとう。お魚さん、ぼくのほねになってくれてありがとう。

こんなにたくさんのいのちを食べて、ぼくは生きていと思うと、言い切れないほどのありがとうを言いたくなります。お米の一つぶものこさずに食べようと思います。たくさんの食べものをこれからもおいしく食べたいと思います。さいごに食べ物、ありがとう。

## みんなの声BOX

Q 消防団員になりたいのですが、どうすれば消防団に入れますか？

A 消防総務課にご相談ください。

消防団は、火災現場などで消防署員の活動を支援するなど、地域に根差した重要な活動をしています。

入団資格は、市内に在住か在勤のかたで、健康なかたです。

詳細については下記までお問い合わせください。



問い合わせ 消防総務課 ☎571-0900